

まごころ周辺の温泉ドライブ

まごころ病院院長 及川雄悦

まごころ病院は奥羽山脈のふもとにあり、周囲には温泉がたくさんある。近いのは夢の湯。銭湯みたいな名前だがまちががなく温泉。栗駒ゴルフクラブに隣接し、まごころ病院からほど近い我が家からクルマで8分で行ける。加温なし、加水なし、循環もなしの源泉100%! かけ流しは豪快だが、お湯は繊細。ナトリウムイオン泉 ナトリウム塩化物泉で細かいアワアワが肌に優しい。湯温も適度で長い時間浸ってられる。三男がサッカーで傷んだ際は夢の湯で癒すのが通例だった。

ひめかゆ温泉。いろいろとあって、私はこの株主だ。無料入浴券が年間20枚もらえる。かつては町の第三セクター的な施設だった。支配人さんから『・・・ひめかゆ温泉なんとかしてけらっしゃや・・・』と頼まれ、とりあえず日本温泉気候物理医学会に入った。大きな声では言えないが、とても楽しみな学会だ。397号を山に向かいダークダックスが銀色の道と呼んだらしい10km続く桜の回廊を抜けるとそこがひめかゆ。ここのとろりとした湯の炭酸水素イオンに体を包まると

かならず『はあ〜』と声が漏れる。精鋭がひめかゆ発展に命をかけており、期待二重丸! イベントの料理も凄い!!



しづか亭。平泉中尊寺の奥座敷。平泉から中尊寺を抜けてたどり着くなら趣もあるのだろうが、我が家から衣川の山あいをクネクネ行くとすぐ着く。わりとあっけない佇まい、と感じる。日帰り入浴にしづか亭自慢のそばランチがつく。というよりそばを食べないと温泉には入れない。ここのそばのコシの強さはヘビー級。誰にも知られずにそーっととおきたいようなちっちゃな温泉だ。(SHOHEIニュース6月号別冊へ続く)

新任医師紹介

6月1日付けで総合水沢病院に橋本禎敬^{よしのり}医師が着任いたしました。1年ぶりの整形外科常勤医です。



岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

岩手県内の新型コロナウイルス陽性者は、6月26現在で3,051人/月、累計で37,762人です。5月中旬から感染者が減少傾向になり、この傾向は6月に入っても続いております。

死亡者数は5人増えて累計で96人です。

年度	3年度												4年度			
月	2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
件数	621	291	530	237	323	1002	475	7	1	3	1253	6012	7508	9353	7096	3051

県内の年代別コロナ患者数 R2.3~4.6.26 現在 (単位:人)

年代	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	比率	症状無	累計比率
男性	3760	3932	2471	2654	2494	1358	946	581	347	113	18656	49%	1433	8%
女性	3483	2856	2369	3314	2904	1481	1072	635	585	407	19106	51%	1331	7%
合計	7243	6788	4840	5968	5398	2839	2018	1216	932	520	37762	100%	2764	7%
比率	19%	18%	13%	16%	14%	8%	5%	3%	2%	1%	100%			
年代別	14031人37%		19045人50%				4686人12%							

市長 医療体制：現行の5病院体制維持を表明

6月3日に開会した市議会定例会で倉成市長は、医療体制に関しては、現在の5病院・診療所を維持すると言明。老朽化が著しい総合水沢病院は、感染症対応等に加え、データセンターと周産期サポート機能を備えた病院として建替えを検討し、年内をめどに複数案提示する考えを表明しました。

(別紙奥州市施政方針(抜粋)を参照下さい。)

大谷翔平選手の成績ボード (R4.6.26 現在)

打者 打率 260 本塁打 16 打点 47 盗塁 8
投手 勝利 6 敗戦 4 防御率 2.90 奪三振 90

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和4年6月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州遺産 奥州湖と焼石連峰ビーチライン ・ ・ ときを越え受け継がれるもの ・ ・

奥州湖 = 胆沢若柳 奥州遺産 No.110 広報おうしゅう令和元年11月



1 奥州湖眺望台から湖面と焼石連峰を望む 2 水位の低下で普段は湖水に沈む石淵ダム旧堤体が姿を見せた(9月20日撮影) 3 湖面ではカナディアンカヌーなど新たなレジャーも行われている

ブナの原生林が生い茂る栗駒国立公園。その山々から流れ出る清水が、胆沢ダムによって湖となっているのが奥州湖だ。平成24年に石淵ダムから胆沢ダムへ引き継がれ、生まれ変わったことで誕生した奥州湖は、それまでの石淵湖の9倍の貯水量を誇る。27年夏、降水量は過去5年平均を大きく下回り、平成6年の渇水被害の再来かと思われたが、奥州湖は農地への必要水量を制限なく補給し続けた。また、東日本各地に水害をもたらした今年10月の台風19号の際には、総雨量155ミリの雨水のほぼ全てを貯め込んだ。

湖を囲む広葉樹の森が、春は新緑、秋は紅葉と湖を彩る。年間1万人を超える人が訪れ、ダムを散策しながら、山の上の眺望台から、ドライブしながら、その美しい風景を楽しむ。

水道用水や発電にも使われ、生活に欠かすことのできない奥州湖。今日も私たちの暮らしを守るため、命の水をたたえている。

※ 胆沢ダム：堤体高127m、堤頂長723m、総貯水量1億4,300万m³わが国最大級の中央コア型ロックフィルダムです。

焼石連峰ビーチライン 奥州遺産 No.50 広報おうしゅう平成26年11月



①ビーチラインは“ブナ”の英訳が beech ということから付けられた愛称。県境の大森山トンネル付近では、秋深まる紅葉の季節、木々は鮮やかに色づく(10月15日撮影)

②道中には、モクラ溪谷や大岩溪谷などがあり、その景観も絶景。溪谷が見えるところには看板が設置されている。

大船渡から秋田県横手市まで伸びる国道397号。胆沢若柳のつぶ沼付近から秋田との県境、大森山トンネルまでの約17キロが“焼石連峰ビーチライン”という愛称で親しまれている。

国道ができる以前、秋田へ行くには仙北街道を利用。三陸沿岸から秋田までの交易の要衝として、武士や商人、旅芸人などが行き交いにぎわっていたという。

当時、馬留(現在の奥州湖交流館(旧胆沢ダム学習館)付近)から奥は“山入り”と呼ばれ、難所の連続だった。馬での通行は不可能で、“背負子”と呼ばれる賃夫が、山を越え荷物を運んでいた。

ビーチラインは、胆沢川の上流に沿って走る。深い溪谷は、生い茂るブナ原生林でなかなか見えないが、秋が深まるにつれ鮮やかに色づく紅葉に、誰しものが目を奪われる。

